

- ▶第113回定時総会議事・プログラム (2面)
- ▶定時総会報告要旨 (3面)
- ▶関東地区新任教師研修会ガイドンス (〃)
- ▶公募 (〃)
- ▶定時総会講演要旨(特別プログラム) (4面)
- ▶行事予定 (〃)

キリスト教学校教育 7

(一社)キリスト教学校教育同盟
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館72号室
 電話 03(6233)8225
 F A X 03(6233)8226
 理事長 西原 廉太
 編集人 豊川 慎
 頒価200円(加盟法人の購読料は会費に含まれています)(毎月1回15日発行)

2024・2025年度教研テーマ
 新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯—いのちの輝きと平和を求めて—

http://www.k-doumei.or.jp
 E-mail info@k-doumei.or.jp



会場の北星学園大学50周年記念ホールにて

キリスト教学校教育同盟 **第113回定時総会**
6月13日(金)・14日(土)
 学校法人北星学園で開催されました
 (オンライン併用)

開会挨拶
 キリスト教学校教育同盟 理事長 **西原廉太**

キリスト教学校教育同盟加盟の各校においても、ChatGPTなどに代表される、いわゆる生成系AIをどのように考えるかは大きな課題となっていること、私たちが生

徒、学生たちには、学びと技法の深化を目的として、AIを有効かつ適切に活用し、AIを「上手に」使える者となつてもらうことを願います。一方で、生成AIがもつともろしい回答をするのは、オンライン上に蓄積された膨大なデータを「学習」するからです。

しかし、教室における生の議論や、芸術作

- 【総会で報告し承認されました】**
 事務局報告(加盟校動静・人事、常任理事会・理事会、教育振興助成)、監査報告、審議(2024事業報告の承認、2024計算書類の承認、補欠理事選任)、2025事業計画(事業/教研/広報)、2025予算
- 【報告・講演(特別プログラム)】**
 報告(中小規模学校の運営と選択) 遺愛学院 頌栄保育学院
 講演(キリスト教学校と平和教育) 北海道被爆者連絡センター 北星学園大学



品を前にした鑑賞者の内的思索は決してビッグデータになり得ません。私たちが学生、生徒たちに求めたいことは、手取り早く知識を得ようとしたり、鵜呑みにしたりすることなく、自らオリジナルの資料、すなわち第一次資料や原書、原文にあたり、読み、確かめて欲しいということだと思います。そのためには、必要な言語を修得し、異なる文化を理解する必要があります。実際に現場に赴いて、生身の人間と出会い、一つひとつの物語に触れてほしいのです。

究極的には、私たちがキリスト教学校の教育者のミッションとは、子どもたちに聖書に記された「はるけき物語」を手仕事的に子どもたちに伝え、子どもたちの一つひとつの物語に丁寧に耳を傾けることに他なりません。社会の複雑化とグローバル化による社会変化とは、実は価値を測る「物差し」が増えるという点でもあり、固定化された一つの「物差し」では、もはや生きていくことはできない時代に突入しています。異なる価値観や考え方を理解するために、私たちのキリスト教学校で、それぞれの自分の「物差し」を増やしていくことが求められます。

が、私たちキリスト教学校の使命なのではないでしょうか。私たちが取り巻く状況には厳しいものがありますが、挫けることなく、共に手を携えあい、互いに祈り、励まし合いながら、共に精一杯に尊いキリスト教教育を担ってまいりましょう。

(追記) 定時総会の前において、日本学術会議改組への懸念が表明されました。キリスト教教育を禁じた訓令12号問題への対抗を淵源とする私たち同盟もまた、重大な関心をもって見守りたいと思っております。

立教学院院長・立教大学総長

- 各地区総会を開催**
- 東北・北海道地区 日時 5月16日(金) 14時30分～15時45分 オンライン開催
 - 関東地区 日時 5月24日(土) 14時～16時 場所 II 捜真学院コルビエ・メモリアル・ホール
 - 関西地区 日時 5月10日(土) 13時～17時 場所 II 金城学院大学N1棟リリー・ハーモニイほか
 - 西南地区 日時 4月18日(金) 15時～16時50分 場所 II 西南学院百年館
- 加盟校動静**
- 山形学院 石川学氏が5月29日

- 敬和学園 榎本榮次氏が5月29日付で理事長を退任、同日付で高橋真人氏が後任に就任
- 聖ステパノ学園 森田利光氏が5月30日付で理事長を退任、同日付で戸村一平氏が後任に就任
- 金城学院 田耕太氏が5月30日付で理事長を退任、同日付で小室尚子氏が後任に就任
- 平安女学院 高地敬氏が2月28日付で院長を退任、同日付で大岡左
- 九洲学院 弘氏が後任に就任
- 日付付で理事長を退任、同日付で萩野昌
- 代子氏が院長に就任
- 関西学院 村上一平氏が5月31日付で理事長を退任、同日付で萩野昌
- 島康文氏が後任に就任

総会スナップ

昼食時も情報交換が続く

チャペルのリアドレス(祭壇壁面)ほか、施設各所が印象的な青いタイルで彩られている

花や緑が豊かなキャンパス

昼食後に中庭でくつろぐ姿も

開会礼拝説教

「安定」への責任
 —ヒゼキヤ王の言葉に学ぶ—

日高嘉彦

ヒゼキヤはイザヤに、「あなたが告げられた主の言葉はありがたい」と答えた。自分の在世中は平和と安定が続くと思ったからである。(イザヤ書39章8節・聖書協会共同訳)

このヒゼキヤの発言は、バビロン王国への従属によって「安定」(体制の持続可能性)を模索していた王に対し、神の裁きを語ったイザヤの預言に対する応答です。従来、この発言は、預言を受け入れる信仰に基づく謙遜の表れ、次世代への責任回避、あるいは避けがたい現実を受け入れた人間的反応とも解釈されてきました。ユダヤ教

では「王の世代責任の欠如」として批判される一方で、カルヴァンは神の裁きをも「良い」と受け止めたことに、信仰の従順を見いだしました。この対比は、「安定」の根拠が人の施策にあるのか、それとも神にあるのかという問いを、私たちに投げかけています。さて「安定」と訳されたヘブライ語の「エメト」は、神の本質である「まこと(信実)」(出エジプト記34章6節)を意味します。イザヤは、ヤハウエによって始められた国の「安定」は、王の政策や計画の延長線上にあるのではなく、神の「まこと」に根ざすものであり、その実現こそ真の安定があると語っています。

翻って今日、学校の運営、財政、教育の質、教職員の体制の持続可能性、すなわち「安定」が模索されている私たちも、ある意味でヒゼキヤと同じ立場に置かれているかもしれません。私たちの「安定」への努力が、何に根ざし、何をめざしているのか、イザヤの言葉は私たち自身にむけられた厳しい問いでもあります。

[祈り]
 「主御自身が建ててくださるのでなければ家を建てる人の労苦はむなし。」 (詩篇127篇1節)
 恵みとまことに富みたもうイエス・キリストの父なる神よ。あなたのまことは、私たちの思いや諮りを超えて大きいことを感謝します。行き先の見えない暗い時代にあって、どうかあなたの光の中を歩ませてください。私たちの小さなエメト(安定)を打ち破り、あなたの大いなるエメト(まこと)が実現しますように。そのために、私たちを戒め、励まし、また強めて、御用のためにお用いください。アーメン

〈北星学園大学・北星学園大学短期大学部 チャプレン〉

第113回定時総会

議事・プログラム報告

〔第1日〕6月13日(金)

(13時～受付登録、Zoom入室)

開会礼拝(14時～・北星学園大学 チャペル)
司式・説教＝「指導者の世代責任と信仰―ヒゼキヤに学ぶ」日高嘉彦(北星学園大学・北星学園大学短期大学部チャブレン)
奏楽＝小泉優香(北星学園オルガニスト)
挨拶(14時20分～)

1) 開会挨拶
キリスト教学校教育同盟 西原廉太理事長
2) 会場挨拶
北星学園 古川敬康理事長・学園長
北星学園大学・北星学園大学短期大学部 中村和彦学長



古川敬康氏



中村和彦氏

○礼拝後、50周年記念ホールに移動
組織(14時50分～)

1) 出席会員数及びその議決権数の確認(第1日目13時50分現在)
〈総会員数＝102法人・総議決権数＝163個〉
出席会員＝91法人・総議決権数＝147個
内訳：会場代表者・代理人出席＝44法人・議決権総数＝78個／Zoomによる代表者・代理人出席＝11法人・議決権総数＝27個／議長委任＝36法人・議決権総数＝42個

(出席者＝会場出席93名、Zoom出席申込者＝28名 合計121名)
※総会員議決権の過半数を有する会員が出席していることを確認。
2) 総会成立宣言・総会議長紹介
議長の西原廉太理事長が開会を宣言。

3) 議事録作成者指名・議事録署名人推薦
議事録作成者：黒田康平氏(北星学園大学)、加藤研吾氏(北星学園大学)
議事録署名人：増田賜氏(折尾愛真学園)、松田和憲氏(関東学院)
4) 総会日程の承認
議長より総会日程が説明され、承認。
5) 報告書委員会付託事項報告
樋田繁治郎総会報告書委員会委員長(北星学園常務理事)



議事(15時1分～)
1. 報告1
1) 各報告
事務局報告
・加盟校動静に関する報告
・加盟校人事異動に関する報告
・常任理事会/理事会に関する報告
その他に関する報告
・公益目的支出計画(教育振興助成)：中島昭子助成選考委員会委員長(捜真学院)
・地区協議会報告書及び地区提出議案(特になし)

※以上、報告がなされ、承認された。
2) 監査報告
2024年度事業・計算書類の監査実施、及び監査結果の報告：福島基輝監事(遺愛学院)
※一同異議なく承認された。

2. 審議(15時26分～)
1) 議案1・2024年度事業報告の承認
・本部事業報告：事務局
・教育研究委員会報告：担当理事に代わり事務局より議案書に基づき説明
・広報委員会事業報告：湯口隆司広報担当理事(活水学院)

2) 議案2・2024年度計算書類の承認
・2024年度決算の説明：担当理事に代わり事務局より議案書に基づき説明

3) 議案3・補欠理事の選任
事務局より補欠理事選任の説明。理事候補者2名が6月13日の第2回常任理事会及び第2回理事会での承認を経て審議事項として

Table with columns: 理事長・理事・監事一覧. Lists names and positions of board members and officers.

して上程された。
理事候補者(2名)
鷗崎創(女子学院)
高橋貞二郎(東洋英和女学院)
候補者2名を含む一覧が画面に示され、会場出席議決権者は挙手、Zoom出席議決権者にチャット記入により賛否を求め、議場に諮った。3つの議案について異議なく承認。選任された出席理事は本決議を異議なく承諾。
4) その他必要な事項
特になし。
○以上で、定時総会第1日目の議事の全てが15時50分に終了。その後、選任された理事・監事により第3回理事会及び第3回常任理事会を開催。

〔第2日〕6月14日(土)
(9時30分～受付、Zoom入室)
礼拝(10時～・チャペル)
司式・説教＝「私たちは同じ舟に乗って」今城慰作(北星学園大学附属高等学校校長・宗教主任)
奏楽＝小泉優香
○礼拝後、50周年記念ホールに移動
組織(10時30分～)
出席会員数及びその議決権数の確認(第2日目10時現在)
〈総会員数＝102法人・総議決権数＝163個〉
出席会員＝98法人・総議決権数＝159個
内訳：会場代表者・代理人出席＝45法人・議決権総数＝81個／Zoomによる代表者・代理人出席＝15法人・議決権総数＝33個／議長委任＝38法人・議決権総数＝45個
(出席者数＝会場出席104名、オンライン出席申込者＝29名 合計133名)
※総会員の議決権の過半数を有する会員が出席していることを確認。

議事(10時35分～)
2日目議事に先立ち、1日目の議事終了後に開催された第3回理事会において理事長、及び総務理事・会計理事を含む常任理事並びに常任監事が選定され、続いて開催された第3回常任理事会において委員会・地区協議会の担当理事が選定された結果が、スクリーン表示・Zoom画面共有により、理事長から報告。理事長・理事・監事は一覧の通り(上の一覧表参照)。

報告2(10時39分～)
1) 2025年度事業計画
事務局及び各実行委員長より報告
◇事務局より
常任理事会/理事会/第113回定時総会/第67回学校代表者協議会
◇新規継続事業
・全国災害支援連絡会議(事務局代読)
・中小規模学校法人連携協力検討プロジェクト：湯口隆司氏(活水学院)
・学内教職員研修会講師派遣制度：村瀬泉氏(西南女学院)
・教育者支援ネットワーク推進：黒木佐幸氏(西南学院)

・クラウドストレージ管理委員会：伊藤悟氏(青山学院)
・キリスト教学校教育同盟史研究プロジェクト(事務局代読)
◇キリスト教学校教育懇談会
◇キリスト教学校教職員就職支援
◇公益目的支出計画(省略)
2) 2025年度教育研究委員会事業計画
事務局代読および、山下智子氏(同志社)、大橋邦一氏(静岡英和学院)、黒木佐幸(西南学院)、平松讓二氏(同志社)、伊藤悟氏(青山学院)により、2025年度教育研究事業計画に関する報告。

3) 2025年度広報委員会事業計画
湯口隆司広報担当理事(活水学院)
4) 2025年度予算の報告
鷗崎博喜会計担当理事(明治学院)
※1)～4)は各報告・説明後、異議なく承認された。
5) その他 特になし。
○以上ですべての議事を終了した。

報告3(11時35分～)
「どうする？キリスト教学校～弱さの情報公開でつながるために」
講演者＝相澤弘典(頌栄保育学院理事長・院長)
写真撮影(12時05分～)
50周年記念ホールで会場出席者の撮影
昼食(12時40分～・大学会館3階食堂)
食前感謝祈禱：高濱梨紗氏(北星学園余市高等学校宗教主任)
○昼食後は校舎見学のほか、13時～チャペルで小泉優香氏によるオルガン演奏あり。
報告4(13時50分～)
『『主の導きを信じて』－福音を伝える学校づくりー』
講演者＝福島基輝(遺愛学院理事長・院長)
講演I(14時30分～)
「北海道の被爆者の歩みとキリスト教学校に期待するもの」
講演者＝北明邦雄(北海道被爆者連絡センター共同代表理事)

講演II(15時8分～)
「北星学園におけるこれまでの平和教育とこれからの平和教育について」
講演者＝片岡徹(北星学園大学文学部教授)
閉会(16時10分～)
1) 次回(2026年度)会場挨拶
沖縄キリスト教学院・金永秀学長
※次回の定時総会は2026年6月5日(金)・6日(土)開催予定

2) 会場校への感謝のこたば
明治学院・鷗崎博喜学院長(キリスト教学校教育同盟を代表して)
3) 閉会祈禱
小西陽祐氏(北星学園女子中学高等学校宗教主任)
4) 閉会宣言
キリスト教学校教育同盟・西原廉太理事長
○以上で第113回総会が閉会した。(16時30分)



金永秀氏

2日目礼拝説教
私たちが乗って
同じ舟に乗って
今城慰作
私たちが生きる現社会は、少子化、財政の不安定、価値観の多様化という三重の波に揺れ動いています。キリスト教学校もその荒波の中にある一艘の舟であり、それぞれが孤立して航行しているのではなく、「同じ舟に乗っている」という意識を持つことができるでしょう。
020年、カトリック教会のフランシスコ教皇はコロナ禍のいわゆるパンデミックの中のミサで、嵐の中で舟にのって怯えていた弟子を救われたイエスの言葉を黙想しながら、次のように呼びかけられました。
「私たちは思いがけない激しい嵐に注意を突かれました。それは私たちが、同じ舟に乗っていることに気づかされたのです。私たちは皆、壊れやすく、途方に暮れています。同時に大切な存在であり、互いを慰め合いながら、ともにオールの漕ぐよう招かれています。もう自分のことだけを考えずに進むことはできません。共にでなければ乗り越えられないのです」
私たちがキリスト教学校も、定員割れの不安や財源確保の困難さ、信仰が形骸化する恐れと日々向き合っています。しかし、真に問われているのは、外的な危機の大きさはなく、「イエスが舟に共におられるかどうか」、そして「私たちがそのイエスを信頼しているかどうか」です。最も恐れるべきは、学校の中心にイエスの存在を忘れてしまうこと。福音の光が教育の目的から失われてしまうことではないでしょうか。信仰を失うことなく、祈りとともに現実に向き合う姿勢こそが、私たちに求められている応答です。
す。もちろん生徒募集や財政管理、教育の質の向上、教職員の心身の健康を守るといった取り組みも努力すべきものです。その根底に見失ってはならないことがあります。神が共におられることを信じ、同じ舟に乗る者として、励まし合うことです。同盟に連なる各学校が祈り合いながら、互いを励まし合い、慰めあいながら、同じ舟に乗って進んでいきましょう。
北星学園大学附属高校校長・宗教主任

第113回定時総会
特別プログラム(講演要旨2件)

北海道の被爆者の歩みと
キリスト教学校に期待するもの

北海道被爆者連絡センター(旧北海道被爆者協会)
共同代表理事 北明邦雄



私は被爆者でも二世でもありませんが、30歳代の終わりに聞きしたある被爆者の話が忘れられなくて、仕事が終わったら被爆者のことを手伝おう、と考えていました。2013年に退職し12月から被爆者協会へ通っています。

北海道には被爆者が多いのです。今も185名もの被爆者がいます(昨年3月末)。親戚や知り合いを頼ったり、結婚や就職で北海道にきた人たちが、兵隊で広島に行つて被爆し帰ってきた人たち、さらには北海道開拓の呼びかけにに応じてやってきた人たちがいます。そして、それらの理由に、広島、長崎から遠く離れた、被爆者といわれたくない、といった事情がオーバーラップしている場合が少なくないように思いま

家がほしいな」と語りました。この発言が支援者の中に広まり、1983年に会館建設委員会が発足し、5000円のレンガ募金(レンガに寄付者の名前を書く予定でした)を全国に呼びかけます。足かけ10年にわたる運動の結果、3万余名の人びとから4000万円を超える募金が寄せられ、1991年12月、札幌市の白石区平和の地に北海道ノーモア・ヒバクシャ会館が建設されます。民間で初めての(市民立)原爆資料館が僻遠の地北海道に建つたのです。この時の建設委員会の委員長をはじめ、中心になつたのはやはり北星学園の先生方でした。被爆者協会はこの会館に

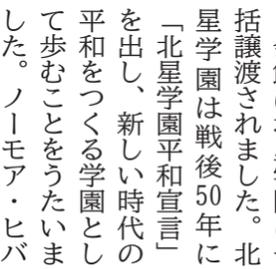
この3月、高齢化のために北海道被爆者協会は解散し、新たに被爆者と被爆二世と支援者によつてつくる被爆者連絡センターが発足しました。再び被爆者をつくらない、核兵器の廃絶をという被爆者が掲げてきた課題を、私たちがすべてに共通する普遍的な課題として取り組んでいこうと話合っています。



「被爆の証言と原爆展」(2015~ 於北海道庁ロビー)

戦後12年ほど革新道政が続きます。そのこともあつて被爆者と支援者の運動のつながりが進みます。1959年から60年にかけて北海道被爆協が結成されますが、被爆者の組織の結成は全国的に見ても大変早いのではないのでしょうか。その後、1965年に1回目の原爆死没者の追悼会が開かれます。主催者のひとつが宗教者平和協議会です。その中心にいたのが北星学園男子高校(現北星学園大学附属高校)など北星学園の先生方たちでした。

北海道には被爆者が多いのです。今も185名もの被爆者がいます(昨年3月末)。親戚や知り合いを頼ったり、結婚や就職で北海道にきた人たちが、兵隊で広島に行つて被爆し帰ってきた人たち、さらには北海道開拓の呼びかけにに応じてやってきた人たちがいます。そして、それらの理由に、広島、長崎から遠く離れた、被爆者といわれたくない、といった事情がオーバーラップしている場合が少なくないように思いま



会館の全景

4回目の追悼会の時、網走の奥の東藻琴に開拓で入っていたあの被爆者が、「ゆつくりくつろげる被爆者の

事務所をおきます。会館は平和のメッセージを発信し、平和学習の拠点のひとつにもなっています。

北星学園の皆さんは、生徒が折り鶴を携えて追悼会に出席したり学校祭で原爆展をやったり、大学の先生は被爆者を招いて学生に話を聞かせました。最近では『北の里から平和の祈り』の絵本に英訳を付してくれたのが北星学園大学英文学科



北星学園大学一般教養公開講座(1993年1月)

北星学園における
これまでの平和教育と
これからの平和教育について

北星学園大学 文学部 教授 片岡 徹



学校法人北星学園は、1995年5月22日に「北星学園平和宣言」を出した。それから30年経ち、現在の世界情勢を鑑みる時、その宣言を生かす努力がますます重要になっている。

Dan West (米国マンチェスター大学の卒業生)
"not a cup of milk, but a cow"
"seagoing cowboy"
"The Base for Enduring Peace"
(永続的な平和の基礎)という科目を
米国マンチェスター大学で1947年に担当
Heifers for Relief Committee (1939)
⇒ Heifer International (1944~現在)

北星学園大学が目指すものとしてミッションステートメントがある。北星学園

の、建学の精神を具体化する科目として現在も続いている。私が担当する「平和学」では、北星学園大学の海外協定校の一つである米国マンチェスター大学(インディアナ州ノースマンチェスター)が1948年に世界で初めて学部レベルでは平和学で学士号(平和学専攻)を出したこと

<行事予定> ※予定は変更することがあります

7/26(土)~28(月)	第69回事務職員夏期学校 (山梨県北杜市・清泉寮)
29(火)	第8回西日本小学校教職員協議会 (同志社小学校)
7/31(木)~8/2(土)	第58回全国聖書科研究集会 (北海道クリスチャンセンター他)
8/4(月)~6(水)	第12回中堅教員リトリート (同志社びわこリトリートセンター)
7(木)~8(金)	第10回全国災害支援連絡会議 (北陸学院、石川県輪島市他)
18(月)~20(水)	第5回教員リフレッシュ研修 (合宿) (奈良県洞川温泉)
21(木)	第69回全国大学部会研究集会 (ホテルエミシア札幌)
21(木)~22(金)	第15回中堅事務職員リトリート (同志社大学今出川キャンパス)
25(月)~26(火)	第5回中小規模学校連携協力懇話会 (同志社中学校・高等学校)
28(木)~29(金)	第5回キリスト教活動担当事務職員研修会 (東北学院大学五橋キャンパス)
29(金)	第12回大学新任教員研修会 (オンライン)
9/5(金)~6(土)	第11回全国事務局長・事務長会議 (福岡女学院大学)
10/23(木)~24(金)	第67回中高研究集会(関西学院高等部)
11/7(金)~8(土)	第67回学校代表者協議会(青山学院)

は、その歴史が一世紀を越えてなお創立者サラ・C・スミスの愛と知と技に基づく教育の志を継承しつつ今日に至っている。その2では「私たちは、移りゆく時代の中で、地域・社会・世界の諸情勢に絶えず目を向け、その中における北星学園大学の存在意義を確認し、本学の果たしている役割を考え、実践することを目指します。」その3では「私たちは、世と時代が作り出した、悲惨な出来事に対して、平和と尊厳を作り出していくために、北星学園大学が果たしていく役割を考え、実践することを目指します」と宣言している。

申込期間近の夏期研修(全国研修)

- 7/11(金) 締切り
・第5回中小規模学校連携協力懇話会 (8/25~26)
- 7/22(火) 締切り
・第69回全国大学部会研究集会 (8/21)
- 7/25(金) 締切り
・第12回大学新任教員研修会 (8/29)
・第11回全国事務局長・事務長会議 (9/5~6)
- 7/28(月) 締切り
・第5回キリスト教活動担当事務職員研修会 (8/28~29)

同盟HP研修案内欄→

かつてスミス先生が記した「スミス校務年誌」には、「本校の根本理念は、生徒にさまざまな分野での有用な知識を教え、生徒が実生活においてさまざまな義務と責任を全うするように教育するこ

6月の定時総会が実に豊かな時となりましたことを感謝を持ってご報告します。戦後八十年を迎えた今も、キリスト教学校が連帯し、「平和」について学び、実践していく歩みの大切さを改めて感じました。

は、2024年に当時の北海道被爆者協会から「北海道ノーモア・ヒバクシャ会館」および展示資料等の譲渡を受け入れた。私は、このことを思う時、改めて北海道被爆者協会の会長を30年間務めた故・越智晴子さんのことを思い出す。現在も札幌市平和バーチャル資料館の中で体験談「広島での被爆 助かった命で伝えること」を視聴することが出来る。



左) 著者 中) 越智晴子氏 右) Katy G. Brown先生 (米国マンチェスター大学)

とである。また、生徒に及ぼす宗教的霊的教養は、本校において重要なもの(本文は英語)という記述がある。これを受けて、学校法人北星学園で奉職する一人として、学園内教育連携委員会を通じて平和に関する中高大連携を促進すると共に、北星学園大学としても「人間性」「社会性」「国際性」を基調として、「平和学」+αの教育実践に引き続き励んでいきたい。



学校法人北星学園HP「北星学園平和宣言」